

# 白山水系エリアの地域活性化 ～デザインラボラトリー白山と協働での開発～

団体名●呉ゼミナール／代表者名●呉 星辰（経済学部地域システム学科・講師）

## はじめに(背景・目的・目標)

石川県白山市の伝統工芸品である牛首紬は、認知度の低下やライフスタイルの変化に伴う着物離れにより、その普及が喫緊の課題となっている。本活動は、牛首紬を現代的なファッションアイテムである「ボディバッグ」へと展開し、新たな消費層の開拓を目指すものである。デザインラボラトリー白山との協働により、伝統技術に「感性工学」の視点を融合させ、消費者の潜在的なニーズを具現化することを目的とした。伝統文化を次世代へ継承するための有効な活用方法を模索し、白山水系エリアの地域資源に新たな付加価値を付与することを最終的な目標とした。

## 活動内容

調査フェーズでは、石川県内の40代以上の男女計900名を対象に、牛首紬の認知および所有状況に関する大規模アンケートを実施した。続いて、男女各10名(計20名)に対して「写真評価共感法」を用いた詳細な調査を行い、消費者が抱く曖昧な感覚を具体的なデザイン要素へと抽出した。これらの分析結果に基づき、ターゲット別に最適化された4種のバッグのデザイン案を策定し、試作を行った。また、JAIST(北陸先端科学技術大学院大学)主催の産学官連携イベント「マッチングハブ」に出展し、開発した製品の展示および説明を実施。来場した多くの企業関係者や研究者と意見交換を行い、実用化に向けた交流を図った。

## 成果、結果の考察

アンケート調査の結果、牛首紬の認知度は年代とともに上昇するものの、所有率は極めて低いという「知っているが持っていない」実態が浮き彫りとなった。しかし、写真評価共感法を通じて、素材の持つ質感を現代的なバッグに変換したところ、消費者の共感を得られる具体的なデザインの方向性が確認された。マッチングハブでの展示では、異業種からの関心も高く、伝統工芸をファッションという切り口で再定義するアプローチが、産学官連携の場においても

高い有効性を持つことが証明された。伝統工芸の「保存」に留まらず、感性データを基にした「価値の転換」を行うことが、地域ブランド再構築の鍵であると考察した。

## 今後の課題、展望

今後は、試作段階から量産・販売を見据えた実用化フェーズへの移行が最大の課題である。製造コストの最適化や、適切な販路の確保、さらには牛首紬の特性を活かしたメンテナンス体制の構築などが求められる。また、今回の開発プロセスで得られた「感性評価に基づいた製品開発手法」を他の地域資源にも応用し、科学的根拠に基づいた地域活性化モデルを横展開していく方針である。展望として、マッチングハブで得られた新たなネットワークを具現化し、地域の製造業者や小売店と連携した継続的なビジネスモデルを確立することで、白山水系エリアの持続的な経済発展に寄与したい。

